

提案書(1/3) 計画全体のコンセプトに関する提案、 業務実施体制に関する提案、 整備型空車庫に関する提案、 業務工程に関する提案 (その他独自の提案)

うつろう社の風景と共に偲ぶ、やわらかな参拝施設

「地形」と「心身」に寄り添う風景をつくる

1. 知北霊園の新たな憩りどころとなる参拝場

景観にも多様性が求められる現代社会において、これからの空間の在り方を示唆する参拝場を提案します。参拝場での参拝者のみならず、公園利用者を含めた全ての来訪者が憩いに憩い、心身ともに休まる場所となるよう計画します。

2. 丘陵の自然的な自然環境を活かした参拝の場

知北霊園が立地する知多半島の自然環境は人々の愛を惹き、各地のためには貴重な水資源として利用されてきました。緑地固有の風土に倣って社をつくり、土へ落ちる命の輝きを大切に計画します。社は季節や時刻の変化に合い、心身に寄り添い、共にゆっくりと生長します。参拝者がうつろう風景を参拝対象としながら、心穏やかに祈る場をつくります。

3. 多様な参拝形式を支援しつつ、ひとつにする

複数の参拝形式や参拝的な建築・設備の導入には特に対応しながら、参拝の場としては不安定で永続性を感じられる、知北霊園の新たな風景となる建築をつくります。



私たちは、知北霊園の参拝場整備方針を尊重し、自然環境と調和したやさしいランドスケープと、風景に馴染みつつも伝統的な造り方を生かした、故人をそれぞれのがたで偲ぶことができる場を提案します。

設計コンセプト

結界となる列柱と社をのぞむリング屋根

一柱が連続することで、静かに社を拝観し、トイレや食卓などの必要設備を廻りながら参拝を促します。
 ・やわらかな半円屋根が安心感をつくり、訪れた人の意識を自然に社へと誘います。美しい形状により参拝者が静かに大きく風が、土の匂いを感じて参拝の場となります。



設計工程

工期とコストを確実に管理しつつ、対話を大切に案を進化させる設計プロセス

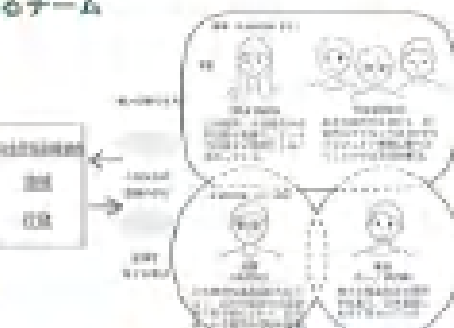
・各棟建築の企画を推進し、工期とコストを確実に管理します。本設計において概算工費を算出し、速報りなく計画を進めます。
 ・知北半島会館組合の方や地域の方と定期的にワークショップを開催し、対話を通して、案を柔軟に進化させる創造的な設計プロセスを推進しています。
 ・多様な社会における参拝について、専門的な知見を蓄積するとともに学ぶ場を設け、建築のみでなく、今後の運営方針や可塑性をもとに考え設計に反映します。

設計工程	内容	実施時期
1. 概算設計	概算設計書の作成	2024.03.01 - 2024.03.31
2. 基本設計	基本設計書の作成	2024.04.01 - 2024.04.30
3. 実施設計	実施設計書の作成	2024.05.01 - 2024.05.31
4. 施工監理	施工監理の実施	2024.06.01 - 2024.06.30

建築体制

知北らしい参拝の場を共に考えるチーム

・工事設計者の行動力と実績豊富な専門家の知識を活かし、行動力と対話によって、ともに考える柔軟なチームです。
 ・管理技術者は、設計図にて用意した本材を使用した中央空調(200㎡)や、地中水にて水造り(300㎡)の内部空間の設計・監理経験があり、予算・工期の管理を確実に進めています。
 ・設計設計共同体に建築資材の現場試験をもつ設計者や、リサーチ力に長けた設計者などがおり、多様な視点からアプローチをすることが可能です。
 ・土木・造園技術者は、日本各地の各業設計のみでなく、自然環境による参拝の設計経験も豊富で、多様化するニーズに対応し、この場に適した建築を提案します。
 ・建築設計者は建築法規・文化施設など多岐の公共建築の実績があり、プログラムに応じた適切な建築計画を提案します。



建築計画概要

造園と建築のバランスが取れた将来性のあるコストプランニング

・省形式とすることで、基礎形式を土留りの少ない省形式としコストの削減をはかります。
 ・建築の現場検討士を造園の仕上げに利用するなど、業種上の連携を行います。
 ・内部空間を最大化することで、有効に使う半島の空間やスロープの活用を促し、造園と一体となった参拝を提案します。
 ・半円屋根にエリアを分け、各エリア首領を調整することで、設計の初期段階から全体の予算管理を行います。

項目	内容	単価	数量	総額
建築費	建築費	1000000	1	1000000
造園費	造園費	500000	1	500000
その他	その他	200000	1	200000
合計				1700000

完成イメージ



周辺の環境に合わせた造り方は、社が連続する構造形式により、列柱と屋根が訪れた人の視線を誘います。

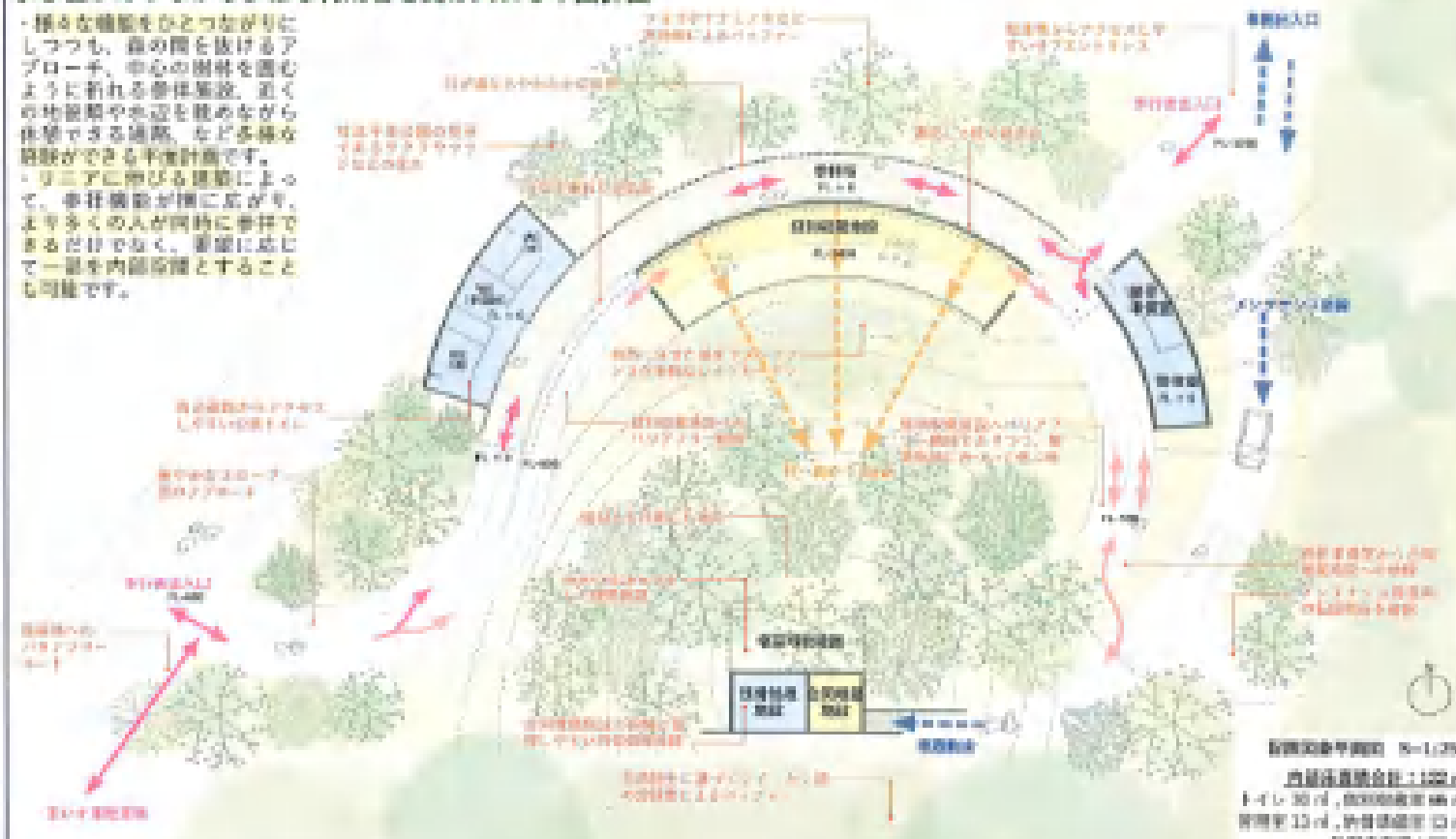
横 370mm × 縦 240mm の枠内に記入すること。

提案書(2/3) 施設の基本構成(配置計画、平面計画、立面計画)に関する提案。施設の意匠・造園計画・景観計画に関する提案。し、その他独自の提案。

4.4.1計画・平面計画

求心性がありながら多様な利用者を受け入れる平面計画

・様々な機能をひとつのながりにつつまし、森の隅を抜けるアプローチ、中心の樹林を囲むように折れる歩行施設、近くの物置庫や水辺を眺めながら休憩できる通路、など多様な施設ができる平面計画です。
 ・リニアに伸びる通路によって、歩行施設が直線になり、より多くの人々が同時に歩行できるだけでなく、距離に応じて一帯を内部空間とすることも可能です。



4.4.2計画

周囲の動線と繋がる配置計画

・隣接する2つの駐車場のどちらからもアクセスしやすく、周囲の動線にもなるよう配置します。
 ・道場の方に向かって配置することで、自然と植栽や周りの区画意識が変になり、美しい風景に集中できる計画とします。



4.4.3計画

郷土の自然とつながる風情基地

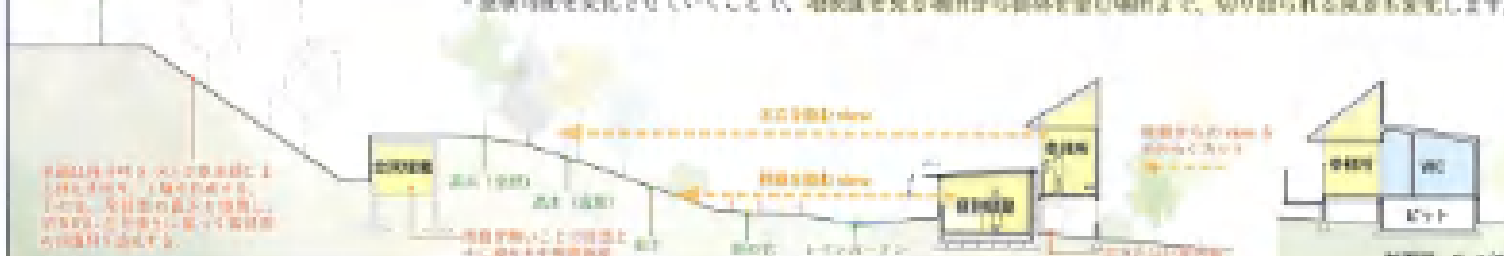
・合衆基地は、地域建物と調和した風情基の概念が歩行対象となります。
 ・外周は国内で採りあるサツマアザミなどの花、ツツジやナツメクサなどの北の山吹の青葉などにより、公園空間に馴染ませます。①②
 ・歩行施設に入ると科樹林が広がり、上部(屋根)はシイ・カン類の常緑樹を主体にケヤキ、サケラ、コブシなど、下部(基)はカエデ類、エゴノキ、ヤマボウシなど、郷土種の構成された植栽を見せます。③④
 ・歩行施設周囲は、特産の野果をメダカ、ブシ、木ととも、オキナ、オキナ、オキナ、ワレコクなど、野の花が彩ります。また、水辺により雨水を集め、一部を浸透型植栽地(レインガーデン)とします。⑤⑥
 ・周囲の造成計画は在来種による植栽で緑化し、将来的には常緑樹の苗木を植栽して緑化を促します。⑦⑧



4.4.4計画

見える風景が変化する断面計画

・歩行施設と側面取壊施設を並列させつつも、高さ差に違いをつけることで、歩行所から側面取壊施設が見えなくなり、それぞれから異なる風景が見える計画とします。
 ・壁面写影を最大化させていくことで、増設面を見る場所から側面を望む場所まで、切り取られる風景も変化します。



4.4.5計画

機能性や経済性も考慮した創せる構造体

・主要な構造材に地元で育った木材を使用します。一層的な構造材である3寸角、4寸以下とし加工を少なく単純化することでコストに配慮した計画とします。
 ・両側の歩行施設によりメンテナンスを容易にし、高度に設計した地盤のような堅固なデザインを実現します。
 ・周囲の付帯は屋根を支えるように造り、全体で安定した構造になります。



横 370mm x 縦 240mm の枠内に記入すること。

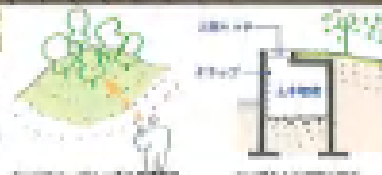
様式書(3/3) 合同理直施設・個別収容施設の仕様、給付方法、参拝方法に関する提案。

合同理直施設の仕様・参拝方法



あらゆる方向から参拝しやすい「柱の無い」合同理直施設

- ・土中埋設施設はコンクリート構造とし、上部に土を盛ることで地盤と一体となる計画とします。床面をつくらないことで、通風は柱に通ります。
- ・地盤になじませながら部材のフォーカルポイントを作ることで、人が居る場所ということも感じられる形とします。
- ・上部にはハッチを設け、裏側から階段で階層にアクセスできる計画にすることで、参拝しやすい目的地的環境を創出します。



資料の活用

軸線上の風景を拜むみんなの参拝所

ひとつの参拝所を参拝する従来の合同理直の形式ではなく、美しい風景を望め、多様な人を受け入れる参拝所とします。

- ・合同理直施設と個別収容施設を同一軸線上に配置することで、参拝所からは、どちらに対しても参拝することができます。参拝の先には常に美しい風景が広がります。



参拝所・見通れつくり

リニアに接続する家具

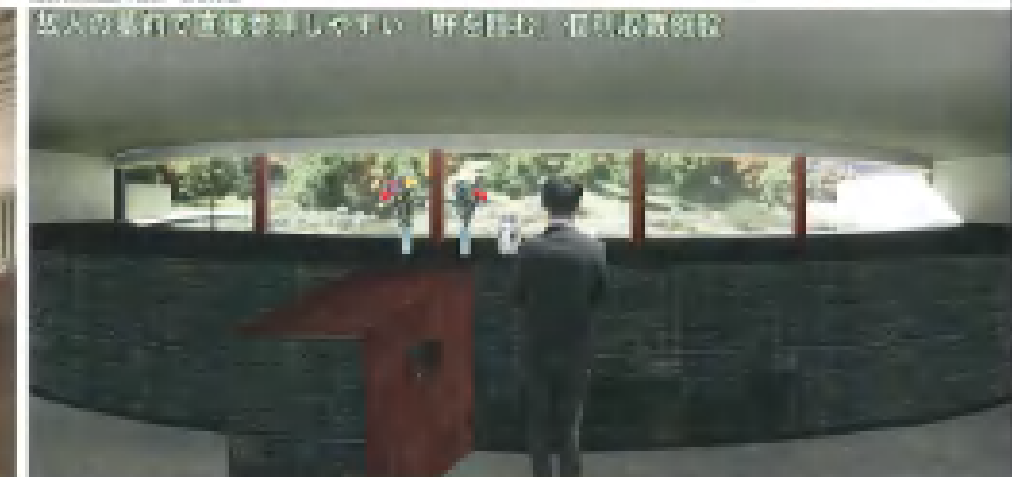
一個体収容の壁土壇に、観覧台を設け、連続する観覧台とします。

- ・手摺を記名板とすることで、空間のときも違和感のないデザインとします。
- ・理直の構造を流したベンチを設け付け、訪れる人全てが自由に休憩できる場を創出します。
- ・観覧台の排水流を地盤面に広がるレインガーデンとすることで、配人の観る場所と繋がります。



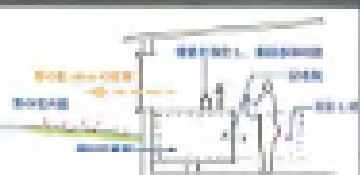
施設の緑地管理に関する提案 (その他独自の提案)

施設管理施設の仕様・参拝方法



配人の観る方向で直視参拝しやすい「野を望む」個別収容施設

- ・園高の低い収容所とすることで、窓からは美しい空を望め、園の風景観感をやわらげ、やさしい気持ちで配人と対峙できます。
- ・引掛式の収容所とすることで、多数の個が林立するのではなく、サンプルな空間とでき、音声を簡単に取り出すことができます。
- ・警備側には記名板を設けることで、配人の観る位置を簡単に確認することができ、通風の目的前で直視参拝できます。
- ・リニアな形によって、要望に合わせた観る角度を容易にします。



施設の利用管理

さまざまな管理の時間軸に応える施設計画

【地・時間軸】

- ・空調設備を備えとし個別に換気を設け、ランニングコストを削減します。
- ・日々使用する警備者や検査メンテナンスを行う方が、スムーズに道具や情報の輸出入ができるよう、車両出入が可能な構造を確保します。
- ・参拝所を半室外とすることで管理側が在時にも参拝できる計画とし、人員費の削減に貢献します。

【長期的な時間軸】

- ・外装材には高耐久性能を持った材料を検討し、維持管理費の削減に努めます。
- ・メンテナンスのかからない素材を積極的に取り入れ、建物の寿命を存します。
- ・空調設備を各階ごとに設け、部分的な稼働の制御を可能とします。
- ・採光設備の埋設型照明をあらかじめ設計するとともに、増設時に換気が導入し、可視な配入環境を確保します。



遠くから風景を望める通路だけでなく、近一歩たり、間まったりできる高場所を計画することで、配人を様々な環境で安心することができます。

参拝所イメージ

遠景・中景・近景とつながる参拝経験



積 170mm×縦 240mmの枠内に記入すること。